

国臨協新潟地区会会報

朱鷺っ と

2022 年 10 月発行第 96 号

発行者 : 中島 亮 (新潟)
編集委員 : 太田 明宏 (西新潟)
竹内 英規 (さいがた)
玉井 真紀 (新潟)



乙 見 湖

(新潟県妙高市)



第50回国臨協関信支部記念学会 地区会コーナー（新潟地区会）

新潟地区会テーマ

我が新潟地区会のコロナ終息したら記念

新潟病院



西新潟中央病院



さいがた医療センター



さいがた医療センター



新潟病院
『コロナ終息したら記念』

えすゴン

新潟県柏崎のPRキャラクター

楽しみだゴン!



温泉に行く!



飲み会開催!



学会に行く!



第50回国臨協関信支部記念学会 地区会コーナー（新潟地区会）



さいがた医療センター
臨床検査科

テーマ
「コロナ終息したら記念」



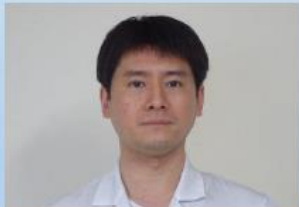
- 1位：マスクのない日常生活
2位：家族旅行
3位：会食
(中村 茂)



新潟県
さいがた医療センター



- 1位：コミケに行きたい
2位：日暮里繊維街を練り歩きたい
3位：北海道に旅行に行きたい
(水澤 望)



- 1位：地方開催の学会に参加（と観光）
2位：歓送迎会や忘年会等の実施
3位：テーマパークやイベントへの参加
(白井 洋平)



- 1位：海外旅行に行く
2位：病院内の方との交流
3位：ディズニーランドに行く
(織原 大貴)



- 1位：国臨協や地区会の交流
2位：神社の祭りに友人たちと
行きたい
3位：親戚の集まりに参加
(竹内 英規)



コロナ終息したら記念
～是非やってみたいこと 西新潟中央病院ベスト3～



新潟地区交流会再開！！！！

新潟病院・さいがた医療センターの皆さんと親睦を深めたい



旅行や会食に行きたい！！

気分転換がしたい 歓送迎会や忘年会をやりたい



マスクを外す！

フレッシュな空気を吸いたい



和気あいあい！！ 😊



マリニピア日本海のゴマファザラシと
検査科スタッフ



楽しかった笹団子作り
や釣りにバーベキュー
Again！！

第50回国臨協関信支部記念学会 地区会コーナー（新潟地区会）



枝折峠(魚沼市)



北方文化博物館(新潟市)



清津峡溪谷トンネル(十日町市)



高田城址公園(上越市)

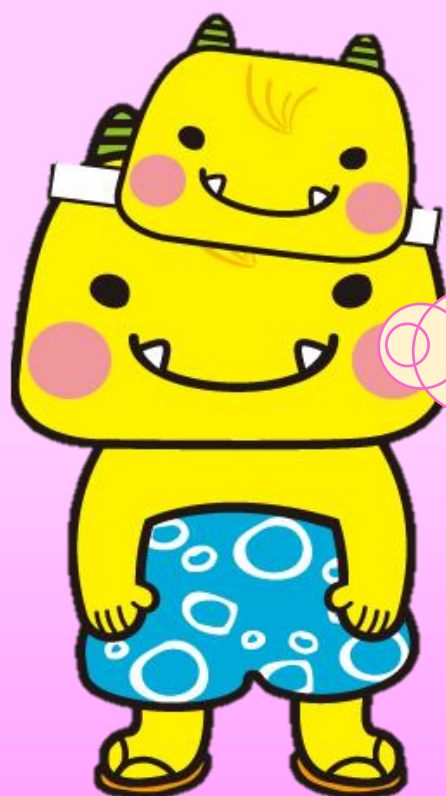
新潟に遊びに来てね



矢島・経島(佐渡市)



高浪の池(糸魚川市)



今号も登場のえちゴンです！

新潟へお越しの際は、
美しい景色、
美味しい食べ物、
美味しい地酒、
を堪能してくださいね！！

まってま～す！！

定期総会についてのお知らせ

『令和3年度国臨協関信支部新潟地区会定期総会 Web開催について』

新潟地区会会長 中島 亮

平素より当会の活動に対しまして、ご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、令和3年度国臨協関信支部新潟地区会定期総会を下記の通りWebにて開催いたします。

議案書および書面議決書については、後日、各施設の理事より送付させていただきます。また議案書の承認については、書面議決書に必要事項をご記入のうえ、各施設の理事にてまとめいただき、11月 2日（水）までに事務局へ到着するように送付願います。

業務多忙の折り誠に恐縮と存じますが、宜しくお願いいたします。

記

日 時：令和4年11月5日（土）13：00～15：00

場 所：ZoomによるWeb形式の為、各出席者接続場所（接続するためのURLは後日施設理事宛てに配信します）

内 容：1.新潟地区会定期総会 書面議決結果報告

2.特別講演

「伝達事項ならびに会員の皆様にむけて」

関東信越グループ 医療担当 臨床検査専門職

前島 基志 先生

3.関信支部報告

国臨協関信支部役員

中村 良幸 理事

ワクチン接種後 新型コロナウイルス中和抗体価の推移

国立病院機構 新潟病院

臨床検査科¹⁾ 同内科²⁾

○宮平来果¹⁾ 柳田光利¹⁾ 磯敬¹⁾ 中島亮¹⁾ 後藤正志²⁾ 小澤哲夫²⁾

筆頭者発表のCOI開示

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。



National Hospital Organization Niigata Hospital

<はじめに>

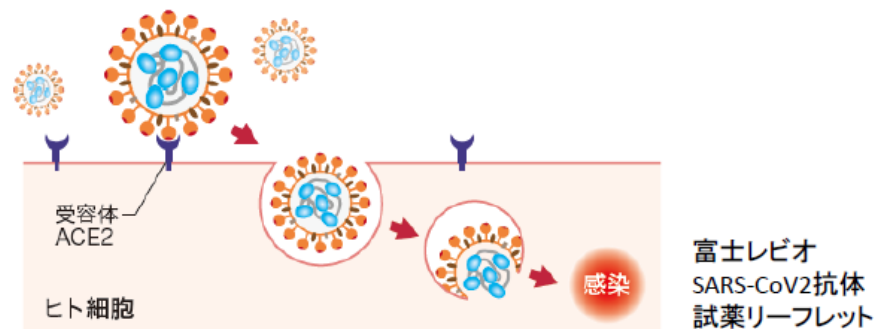
- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するワクチン接種が進められてきた。当院では希望する職員にファイザー社製のワクチン接種を実施し、3回目接種率は90%を超えている。
- ファイザー社製ワクチンは、新型コロナウイルス(SARS-CoV2)のスパイクタンパク質のmRNAを含む製剤である。このmRNAを基にヒトの細胞内で産生されたスパイクタンパク質に対して抗体(S-IgG)産生が誘導される。
- 今回コロナワクチン3回目接種を行った職員のうち希望者に対し、血清S-IgG抗体価(AU/mL)を3回目接種前、接種1ヶ月後、接種3ヶ月後と経時的に測定した。



National Hospital Organization Niigata Hospital

<SARS-CoV2について>

- RNAウイルス
- エンベロープを持つ
- ヒト細胞のACE2(アンジオテンシン変換酵素2)受容体に、SARS-CoV2のスパイクタンパク質に存在するRBD(受容体ドメイン)が結合し、宿主細胞に侵入・感染する



National Hospital Organization Niigata Hospital

<対象・方法>

【対象者】

20～70歳代(中央値48歳)の当院職員115名(男性29名、女性86名)

* 研究参加に同意あり

* 3回目のワクチン接種以前にコロナウイルスに罹患していない者

【使用機器】

ルミパルスG1200

(富士レビオ)

【方法】

当院では希望する職員に対しファイザー社製のワクチン接種を実施(ワクチンは3回すべてファイザー社製)

ワクチンを基にヒトの細胞内で産生されたS-IgGを測定

採血はワクチン3回目接種前、接種1ヶ月後、接種3ヶ月後の計3回

【使用試薬】

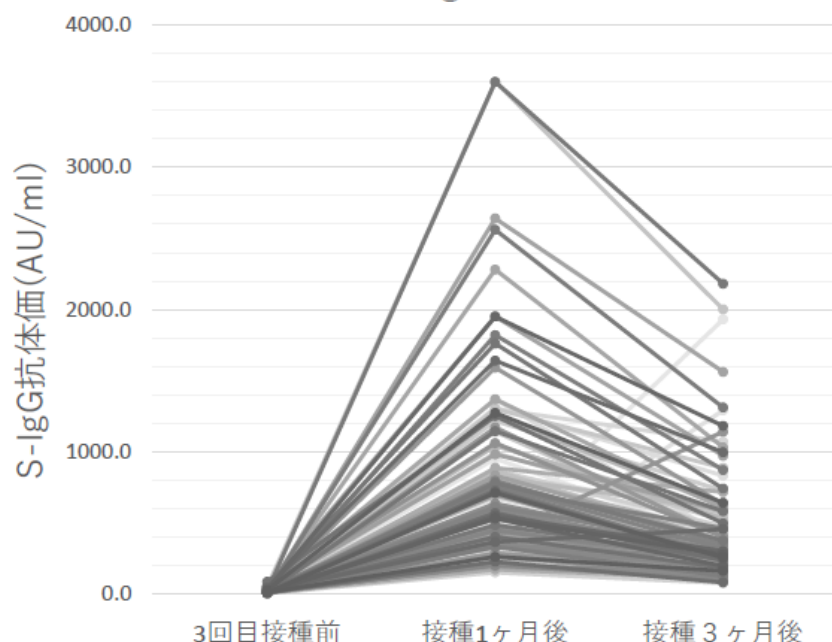
SARS-CoV2 S-IgG 測定試薬

(富士レビオ)

National Hospital Organization Niigata Hospital

＜結果 1＞ 全被験者の抗体価推移

全被験者S-IgG抗体価の推移



S-IgG抗体価	増加	減少
3回目接種前から接種1ヶ月後	115	0
接種1ヶ月後から接種3ヶ月後	6	109

被験者の95%で、接種1ヶ月後と比較して3ヶ月後にS-IgG抗体価が減少
→経時的に抗体価は減少する

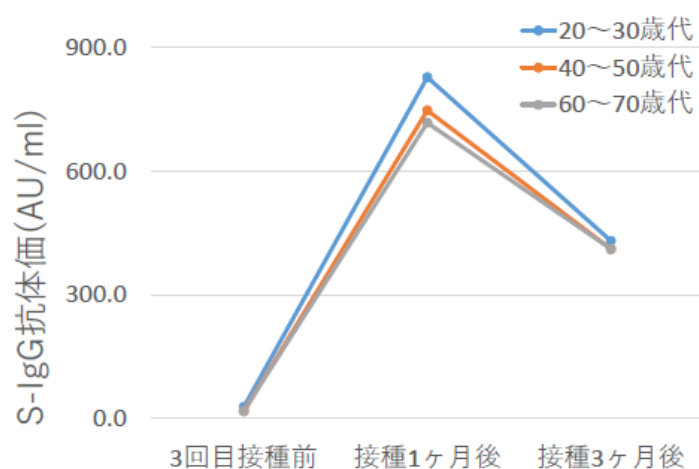
被験者の5%で、接種1ヶ月後と比較して3ヶ月後にS-IgG抗体価が増加
→不顕性感染も考慮し、
全被験者のN-IgGの測定を検討

* N-IgGとはコロナウイルス感染時に産出される抗体

 National Hospital Organization Niigata Hospital

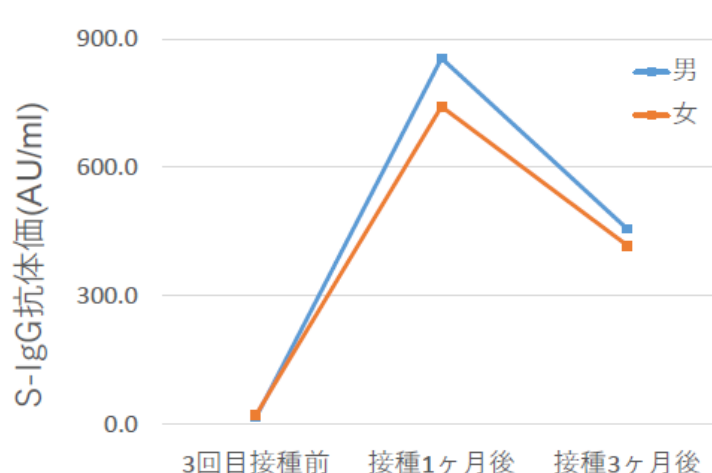
＜結果 2＞ 全被験者の年代、男女別の抗体価推移

S-IgG抗体価の年代別推移



すべての年代でS-IgG抗体価の平均値は接種3ヶ月後に減少

S-IgG抗体価の男女別推移



男性も女性もS-IgG抗体価の平均値は接種3ヶ月後に減少

 National Hospital Organization Niigata Hospital

<結果 3> 同居者がSARS-CoV2感染した被験者の抗体価

全被験者(115名)のうち、ワクチン接種3ヶ月以降に同居者がSARS-CoV2に感染した被験者は8名

- ・自身も感染した者(陽転者) 4名
- ・自身は感染しなかった者(非陽転者) 4名

陽転者	S-IgG抗体価(AU/mL)		
	3回目接種前	接種1ヶ月後	接種3ヶ月後
A	11.5	230.0	85.0
B	29.0	310.0	295.0
C	14.0	1216.0	725.0
D	58.5	1950.0	970.0
平均	28.3	926.5	518.8

非陽転者	S-IgG抗体価(AU/mL)		
	3回目接種前	接種1ヶ月後	接種3ヶ月後
1	3.0	300.0	80.0
2	26.5	770.0	265.0
3	6.5	1820.0	870.0
4	25.5	1272.0	640.0
平均	15.4	1040.5	463.8

接種3ヶ月後の検体採取日の直後に、同居者がSARS-CoV2に感染した2例のS-IgG抗体価

	S-IgG抗体価(AU/mL)	検体採取日	同居家族の感染判明日
非陽転者 4	640.0	○月×日	○月×日
陽転者 B	295.0	○月×日	○月×日

National Hospital Organization Niigata Hospital

<結果 4> 同居感染者との接触状況(聞き取り調査)

陽転者	S-IgG抗体価(AU/mL)		
	3回目接種前	接種1ヶ月後	接種3ヶ月後
A	11.5	230.0	85.0
B	29.0	310.0	295.0
C	14.0	1216.0	725.0
D	58.5	1950.0	970.0
平均	28.3	926.5	518.8

非陽転者	S-IgG抗体価(AU/mL)		
	3回目接種前	接種1ヶ月後	接種3ヶ月後
1	3.0	300.0	80.0
2	26.5	770.0	265.0
3	6.5	1820.0	870.0
4	25.5	1272.0	640.0
平均	15.4	1040.5	463.8



- ・食事会での感染拡大(大量の飛沫発生)
- ・幼児から感染した(隔離困難)



住居内で基本的な感染対策を講じることが困難



- ・同居者同士の生活リズムが異なる
 - ・単身赴任、週末のみ帰省
- 感染者を隔離できる状況



住居内で基本的な感染対策を講じることが可能

National Hospital Organization Niigata Hospital

＜考察＞

- ・ 接種3ヶ月後の検体採取日と同時期に同居者がSARS-CoV2感染した2名の接種3ヶ月後時点のS-IgG抗体価は、非陽転者640.0 AU/mL、陽転者295.0 AU/mLであった。
- ・ 今回使用した富士レビオ社の測定試薬では、S-IgG抗体価の中和能閾値についてSARS-CoV2従来株では発症抑制効果を期待できる値は72 AU/mLとされていた。しかし、今回の結果から300 AU/mL近い抗体価を有していても感染者との接触状況によっては感染・発症を防止できないことが判明した。この事実は従来株に比してオミクロン株の感染力の強さを示唆するものである。
- ・ 一方、同居者がSARS-CoV2に感染しても家庭内で感染者の隔離が可能であったり、手指消毒等の感染予防策を講じた例では感染を防ぐことが出来た。

 National Hospital Organization Niigata Hospital

＜まとめ＞

- ・ 全例で3回目ワクチン接種1ヶ月後のS-IgG抗体は、接種前よりも増加した。115例中109例(95%)で3ヶ月後の抗体価は、1ヶ月後の抗体価よりも減少した。
- ・ ワクチン接種3ヶ月後の抗体価が1ヶ月後の値よりも増加していた6例については、観察期間中の不顕性感染の有無を確認するため、N-IgG抗体(SARS-CoV2感染時に産生される抗体)の測定を検討している。
- ・ 同居者からSARS-CoV2感染した例の抗体価が295.0 AU/mLであったことから、従来株と比較したオミクロン株の感染力の強さが推定された。
- ・ 同居者がSARS-CoV2に感染した8例の聞き取り調査の結果から、基本的な感染防止対策を講じることの有用性が改めて確認された。

 National Hospital Organization Niigata Hospital

第76回国立病院総合医学学会に参加して 新潟病院 中島 亮



今回、2022年10月7日～8日に熊本県熊本市で行われた第76回国立病院総合医学学会へ参加してまいりました。私は臨床検査部門のシンポジストとして参加するため、web用スライドを作製し準備を整えていましたが、現地開催となったため久しぶりの緊張感を味わうこととなりました。その話は後ほど・・・

今回は『Branding, Presence, Marketing～選ばれるためには～』というテーマでした。開会式の来賓挨拶の中で、どなたかが意味のわからないテーマだといっておりましたが、直訳するとNHOをブランド化し存在意義をだして売り出す戦略を立てるということでしょうか、少し難しいテーマだと思いました。ですが、それよりも驚いたことがオープニングで行われました。

それは、司会者がたけし軍団の井出らっきょさんだったのです。派手なオープニング曲を流し、小さな獅子舞をつけたビキニパンツで、ねじりはちまきに上半身はだかで、「御利益があるから獅子舞に手をいれなさい」と参加者に言い、見事にセクハラを堂々となし、華々しく登場しました。壇上の楠岡理事長、熊本県知事等々を始め、会場にいる全ての人が目丸くしていました。もちろん私たち同行者も大変驚きました。しかし、ビキニパンツ姿で司会を始めると、滑舌もよく素晴らしい司会ぶりでした。聞けば学会長の

NHO熊本医療センターの高橋毅院長と小学生以来の親友だったそうで、はじめは懇親会での司会を依頼したのですが、新型コロナウイルス感染蔓延のために中止となり、開会式での司会となったそうです。とにかく後にも先にもこのような開会式は無いと思いますので、衝撃を受け楽しい思い出となりました。





また学会の合間を縫って熊本城へ行って参りました。お城は6年前に発生した熊本地震から6年あまりがたちましたが、未だ完全復興には時間を要するところです。崩れ落ちた石垣や、倒壊されブルーシートで覆われた建造物を見ると、とても感慨深く感じました。熊本城は日本三名城の一つで、見所がたくさんあると知られています。



小天守では、石垣の上に忍び返しと呼ばれる敵の侵入を防ぐ鉄串が設置されており、戦に備えた仕掛けが他にもたくさんあり、それらを見られるのは魅力的だと思います。また天守閣は階段で上まで登ることができ、OBの先生方も頑張っておられました。かなり息があがっていましたが・・・機会があれば、是非、熊本城に出かけてみてください。

また熊本は、料理が美味しいことでも知られています。印象に残った料理は馬刺しで、その中でも鬺（たてがみ）は絶品でした。他にも、絶妙な揚げ加減で仕上げた辛子レンコン、赤牛ステーキなども美味しかったです。しかし中でも一番美味しかった料理は、一文字のぐるぐるでした。初めて食べましたがとても美味しかったです。この料理は、ネギをかたさが残るぐらいまでゆで、ネギをぐるぐるに巻き付けて、白みそで作った酢味噌で食べる熊本の郷土料理です。是非、ご賞味ください。



一文字のぐるぐる



さて臨床検査部門のシンポジウムについては、最終日の8日（土）に「新時代への挑戦」～今こそ臨床検査技師の未来を考える～をテーマとして、4演題発表されました。

演題1では、「新型コロナウイルス感染症から臨床検査は如何に変革を遂げるか」として、長崎大学病院の柳原克紀先生が新型コロナウイルス感染症における臨床検査技師の役割についてわかりやすくweb公演されました。

演題2は、「感染症サーベイランスの効率化と臨床検査」として、北見工業大学の奥村貴史先生が、新型コロナウイルスの感染症サーベイランスで得た非効率な教訓を生かし、次のパンデミックへの備えとしてほしいと講演されました。

演題3は、「がんゲノム医療・医療情報の観点からこれからの臨床検査部門を考える」として、NHO九州がんセンターの田口健一先生が、臨床検査医長としての臨床検査部部門への関わり合い方や未来像について講演されました。

最終演題4は、「臨床検査技師のタスクシフト/タスクシェアの現状と未来像」として、国臨協と国臨技長会との合同アンケート調査報告を交え、タスクシフト/タスクシェアを推進するためには出来ることから取り組み、他職種との連携を築き、施設にとっての有益性と参画可能な業務範囲を見定めて診療に貢献できるようにと、緊張しましたが臨床検査技師の立場として講演しました。かなり時間が超過してしまいましたが、100名近くの参加者があり、活発なディスカッションとなり熱気に満ちたシンポジウムとなったと思います。





最後になりますが、3年ぶりの対面式での国立病院総合医学会に参加させていただきましたが、他施設の方々やOBの先生方や勤務地が一緒だった他職種の方々、直に会い話をするのができ大変良かったと肌で感じました。今後もウイズコロナでこのような対面形式で学会が開催されると思いますので、色々な方と交流し、美味しいものを食べて、何かひとつは必ず得るものがあるはずですので学会へ参加してみてはいかがでしょうか。来年は広島でお会いしましょう。





今年度活動予定



- ・地区会定期総会・研修会 web開催
日程：令和4年11月5日（土）

- ・「朱鷺っと」発行
年3回（1・7・10月）

※新型コロナウイルス感染症の状況により
変更となる場合があります。

編集後記

今年も残すところ2ヶ月程となりましたが、アッという間の1年間だった気がします。気がつけば今年も何もできずに終わってしまい、来年こそは何かひとつでも知識を蓄えていきたいと思います。今年度の役員は、この号で修了し、新たな役員を迎えます。引き続き朱鷺っとは続けて参りますので、次号を楽しみにしてください。1年間、ありがとうございました。（R.N）



新潟地区会事務局
NHO新潟病院
臨床検査科内
TEL：0257-22-7754